

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391600048		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ須屋		
所在地	熊本県合志市須屋2863-4		
自己評価作成日	H28年2月29日	評価結果市町村受理日	平成28年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	H28年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらんぼ須屋も開所し5年が過ぎようとしている。開所当初からのスタッフも多く利用者が心地よく生活できるよう、又明るく家庭的な雰囲気味わってもらえるような対応を行っている。併設の認知デイや小規模多機能の利用者との交流を定期的に設け、また日々の生活の中でも家族はもちろんのこと友人・ボランティア・元職場の同僚など気軽に訪れてくれる環境作りを心掛けている。職員は利用者寄り添い役割や楽しみを持って生活出来る様支援を今後も続けていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から5年、入居者の介護度は高くなっている現状の中、この一年も馴染みの職員によるチームワークを大切にケアは、入居者や家族に安心感を与え、初めて訪れた方からも「アットホームな雰囲気ですね！」と嬉しい感想を受けている。年々介護福祉士・ケアマネジャーの資格取得者も増えており、職員の努力や、やりがいを持って働ける職場環境であることが窺える。「ホーム名にちなんでさくらんぼの木を植えましょう！」の一言から植樹されたさくらんぼの苗木はこの春も多くの花を咲かせており、初夏には鮮やかな赤い実をつけることであろう。職員の持ち味は入居者一人ひとりの個性や笑顔を引き出しており、訪れるものにも安心感をもたらしている。入居者にとって貴重な時を今後も『あなたと共に』過ごしていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 A棟

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は名札に理念を記したものを携帯しており施設内3か所に掲示してある。年度末には皆で理念の内容を確認している。	開設時に全職員で考えた理念は、年度末に内容の確認を重ねながら今日に至っている。会議の中で基本姿勢である『あなたと共に』について話し合い、“職員のペースではなく入居者のペース”で支援にあたることなど周知を図る機会を持っている。理念や基本方針については、家族や運営推進会議の中でも説明を行っており、信頼関係の構築に繋げている。介護度は高くなっている現状であるが、職員の入れ替わりもなく理念を大切にケアが、入居者の日常を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃・行事に参加したり小学生の慰問や学習発表会の招待を受け毎年中学生の職場体験などで交流を深めている。音楽、舞踊、囲碁などボランティアの支援も受けている。	地域の中の一員として清掃活動や行事への参加協力などにより、ホームへの信頼も深まり、ボランティアとの交流や外出支援など入居者の活動の幅をも広げている。また、高校生の実習や中学生の職場体験、小学生とのボランティア交流は認知症への理解を深める機会にもなっている。今年度は市の広報誌の中で認知症特集で当ホームを含む法人施設や事業所が紹介されている。	開所時から積み上げてきた地域との信頼関係が今後も変わらないことなく、5年の節目を機会に新たな交流の幅を広げていかれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの見学時、運営推進会議でも認知症に関する話と事例を通しての話をしている。高校生の実習や中学生の職場体験時も認知症について理解を深めてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人職員・地域住民・市職員の参加あり入居者状況や活動状況を報告し、意見交換の場となっている。参加者からの質問やこちらからのお願いなどもしている。家族にも会議の内容を理解していただける様に議事録を玄関に掲示している。	小規模多機能事業所やデイサービスと合同で2ヶ月ごとの開催が実現している。参加者からの介護相談に応じたり、ホーム側が囲碁や将棋ボランティアの紹介を依頼したところ実現に至るなど、毎回有意義に開催されていることが聞き取りからも確認された。また、外部評価についての質問にも、行政や職員より自己評価や意義などについて回答されている。家族には会議録を玄関に掲示することで、周知に繋げている。	今後は実習や体験学習などを受け入れている高校や小・中学校の関係者にも会議への参加を依頼することで、新しい角度からの意見をホーム運営に活かされるものと思われる。また、会議録についてはわかりやすい書式を統一されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回行われる運営推進会議に参加していただき、情報交換ができています。書類の提出でわからないことなど窓口や電話で相談をしています。	行政担当者とは開設時より何かあれば管理者が直接役所を訪れ、相談事項に応じてもらうなど良好な関係が構築されている。今年度は短期利用のサービスを開始する際、担当者からアドバイスを受けている。また、運営推進会議の中で介護相談員導入についてメンバーより質問を受けた際、取り組み内容や相談員からの記入表は必ず市に報告して総評が行われることを説明している。初めてホームを訪れた相談員から「関わりがアットホームでいいですね！」との、感想を述べられたとのことである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外、施錠をしておらず日中はセンサーを設置し出入りを確認している。年1回勉強会を行い新人にも身体拘束マニュアルについてきちんと説明している。自席以外にもソファでゆっくり過ごしてもらったり、A・B間も自由に行き来しお互いのスタッフで見守りしている。	玄関は夜間のみの施錠で日中は散歩など自由にできる環境である。身体拘束については、ホーム独自のマニュアルを使用した研修会により周知徹底を図っている。入居者はユニット間を自由に行き来したり、ユニットに固定されない場所でゆっくりと寛がれる姿からも、ホームの日常を知ることが出来た。管理者は職員の心身の安定が重要であり、一人で頑張り過ぎないように！無理をせず何かあれば助けを求めることなど、普段から職員の心のサポートに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で言い合える環境づくりに努め虐待防止に心掛けている。年1回は勉強会を行い認識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されてる方はいないが勉強会で知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉を用い説明をしている。何か疑問点、不明なことはないか面会や電話連絡時は確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話の際は現状報告し、意見や要望を聞くようにしている。担当を設けており日頃からご家族とも話しやすい環境づくりを心がけている。そこで出た意見、不満、要望はスタッフ同士報告し、改善につなげている。年1回茶話会を実施している。	入居者の意見・要望は普段の関わりの中から聞き取っているが、食べたい物については献立やおやつなどの中に取り入れ、「自宅へ帰りたい！」の要望には、家族へも伝えながら対応している。家族とは面会時や電話、毎月の広報誌、担当者による手書きの報告書などにより近況を伝え、信頼関係から意見・要望を把握している。また、外部の相談窓口については、入居時などに書面をもとに説明を行っている。	年1回の茶話会の開催など家族と交流や意見交換の機会を設けているが、今年度の会は参加家族も少なかったようである。今後は職員間で内容を検討したアンケートの実施も、家族の意見などを把握する手段になると思われる。また、職員のモチベーションもあがる機会になると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議は毎月、年2回は全体の会議を行い職員の意見を聞くようにしている。提案に対しても皆で話し合い改善し、次へのステップにつなげている。また職員が気軽に話が出来るような環境作りに努めている。	ユニット間の会議やホーム全体会議を実施し、職員の意見や提案を確認している。管理者も日常の業務に入っており、職員も話しやすい環境である。法人関係者もホームを訪れ、入居者や職員と会話をし、現状を把握している。離職のない状況や入居者と接する職員の表情からも、職員がチームワークをもって勤務にあたっていることが窺われる。また、介護福祉士やケアマネジャーの資格取得者も増えており、ホームにとっても嬉しい現状である。	入居者のADLの低下などによりユニット間の交流が少なくなった現状から、レクリエーション委員が『おはぎ作り』を予定している。委員のアイデアが入居者の楽しい交流になると思われる。実現が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々職員と話す時間を設け、勤務に無理はないか不満などについて確認している。経験のある人には新人のフォローをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、母体での勉強会に参加し、レベルアップのためケアマネ、介護福祉士の資格取得の支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿・菊池グループホーム勉強会へ職員は参加し、そこで情報交換、新しいことを習得している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け、又言動に注意を払い遠慮なく思いを伝えられる環境づくりを心掛けている。不安な様子が感じられる時には居室など静かに話せる場で話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の生活状況を把握し負担の軽減と不安が解消できるよう、又思いを表出できる様に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって今困っていることや要望など確認し安心して生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を聞き安心して生活していただけるような声掛けを行っている。日常生活の中で個別で会話する時間を設けたり、グループレクの参加を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の状況を載せた手紙を担当者が書き送付。2ヶ月1回発行している‘さくらんぼ新聞’にはホームでの様子や写真を載せて伝えている。家族に負担がない程度、外出や外泊などを支援している。また、大きなイベントには参加を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、小規模やデイを利用していた方はスタッフに来てもらったり、事業者内でのイベント時は行き来し馴染みの人との交流を図っている。元職場の同僚や入所前にお世話していた方の面会やその方との外出もある。	これまで隣接の小規模や認知症デイを利用しておられた方もあり、事業所間の交流や職員に足を運んでもらうなどこれまでの関係を継続している。また、家族が遠方の所は民生委員の協力によって、自宅へ仏壇参りをされる方もおられる。1番風呂への希望、歌や書、手芸など趣味や特技が継続でき、また、自信に繋がるよう掲示やお披露目などの環境を整備している。洋裁をされる方がつかせ(指ぬき)について、説明して下さる生き生きとした表情が印象的であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格や・能力を把握した上で協力・協同生活できる様職員は見守り、時には間に入っている。孤立しそうな利用者に対しては環境を少し変え個別で対応しストレスにならないように気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族へ病状を伺いの電話をしたり、施設や病院の相談員の方を通して状況を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接する中で、今の気持ちを聞いたり望みや不安などを察知し家族面会時にも意見を聞いている。申し送りやカンファレンスを行い一貫した援助が出来る様に職員同士の話し合う機会を設けている。	職員は日々入居者に接する中で思いや意向を引き出すよう努めており、発語困難な方へは動きから察して声かけをするようにしている。また、家族やこれまで関係のあった方など、面会や電話などに現状を報告しながら、本人の思いに沿ったケアができるよう何か気づきがあれば話してほしいと伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネージャーから入所時前の生活歴、家族構成、身体状況等の情報収集に努めている。入所後も新たな情報は職員で共有しケアに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意思を尊重して一日の過ごし方を決めて支援している。又、本人の現状での心身状態に応じて無理のないように、今出来ることや興味のあることの把握に努め生活の中に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を元に職員の意見を反映しプランを立案している。また気付いた事は日々職員間で話し合い検討している。担当者会議では本人や家族の意見を取り入れると共に現在の状況を説明し計画通りに援助が出来ているか確認しながら行っている。	本人や家族の意見や要望をもとに、職員の意見や気づきを反映したプラン作成に努めている。定期的な見直しや必要があれば朱書きでの追記や削除など、現状に即したプランとしている。家族への説明は来訪時や帰省時など個々に応じて対応しており、不明な点は遠慮なく尋ねて欲しい事を申し添えながら話しを進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録に記入しており、特変や家族からの連絡、医療機関受診などの注意事項は申し送りノートを活用し職員間での情報交換を行っている。又、ケアの実践結果、気づいたことなど介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、家族の代わりに日用品を買いに行ったり、近くの理髪店まで同行したり柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	正月は近くの神社へ参拝、又地域の行事にも参加している。理容室へ定期的に行かれる方は顔なじみになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族が同行するが、受診前には血圧の値を記したものを用意したり日頃の状況を話し、必要時には職員も同行している。家族の都合で受信できない方は往診を依頼している。不安なことは直接かかりつけ医よりアドバイスをいただくこともある。	かかりつけ医は、入居前からのかかりつけを支援しており、受診は家族対応を基本としている。この場合、血圧の薬などのデータを家族に渡し、不明な点はホームで医療機関と連絡を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。緊急な場合や認知症専門医の受診が必要な場合等は、家族と連絡を取りながら、ホームで対応している。また、食後の口腔ケアにも努め、協力歯科医による定期的な往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの異常や身体面での変化があるときは早めに看護師に報告し、異常の早期発見に努めている。感染性の疾患や救急時の処置の仕方などの勉強会を看護師が担当している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と連絡を取り職員も面会に行き、退院前は担当医・PT・相談員との会議に参加したり連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取りの実例はないが、勉強会により知識を深めている。日頃から看護師が介護職員に病気や介護についてのアドバイスを行い家族には契約時に重度化した場合における指針・同意書の説明をしている。	家族からの要望もあり、重度化や終末期に向けた指針を策定し、契約時の段階から、家族に説明している。まだ看取りの事例はないが、支援の方向であり、外部研修会に参加し、ホーム内での復講によりスキル向上に努めている。	高齢化によるADLの低下は否めない現状である。終末期に対する家族の思いに応えるためにも、かかりつけ医との連携や職員のメンタル面にも配慮した研修会の継続に期待したい。今後も家族との信頼関係を重ねながら、一日一日を大切に過ごしていただけるよう支援いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し救急車要請やスタッフも連絡がつくよう電話のところに貼り出してある。今年度よりAEDを設置しており消防署の方に来ていただき、胸骨圧迫法、AEDの使い方など救急車が到着するまでにできることについて勉強会を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの下、災害・夜間想定を組み込んだ消火避難訓練を年2回行っている。地域の協力体制は事前に自治会長さんに連絡し近隣の方にも訓練について回覧し協力をお願いし参加してもらった。施設内には卓上コンロや非常食なども準備している。	7月と12月に消火避難訓練を実施している。12月には、自治会長から訓練実施が回覧され、近隣からの参加もあっている。講評では、ふとんを使った避難方法等が評価された一方、火元の手配がわかる通報をすることや近隣の協力をお願いすることなど指導を受けている。備蓄は、飲み物や食べ物が確保されており、母体との連携も取れている。	災害対策は、ホームだけでの対応では限りがあり、今後は運営推進会議を訓練日に開催するなど、地域との協力、連携に繋がるような取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した介護、声かけ等を心がけている。又、排泄、入浴、個室でのプライバシー面では利用者が気持ちよく過ごして頂けるよう対応に努めている。守秘義務については入職時や研修を通して学んでいる。	入居者の呼称は苗字にさん付けとし、夫婦の場合は、家族の了解を得て、名前にさん付けとしている。居室やトイレに入るときは、ドアをノックしており、入浴介助の際も、本人の意向を尊重した対応をしている。個人情報の保護については、家族の了解を得ており、守秘義務についても、職員への指導とボランティアなどにも説明を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や入浴、休む時間等、日常の中で選択をして頂けるよう声かけを行い、無理強いすることなく一人一人が自由に過ごせるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、一人一人のペースや生活リズムを大切に話しを聞きながらゆっくり過ごしていただいている。又、天気の良い日は畑や近所を散歩することで気分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望し好みに合った服装や季節・体質にあった服装に心掛けている。散髪は以前より利用されていたところへ行ってもらい、家族や利用者から要望があれば近所の理容室へ行けるよう支援している。爪や耳垢も気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを準備したり、簡単な盛り付けなどを入居者と一緒に行っている。嚥下状況に合わせてきざみ・ミキサー食を提供。本人の状況により盛り付けの工夫やむせのある方にはトロミをつけている。季節感や行事に合わせた献立に利用者の意見、希望が反映するよう努めている。	母体の管理栄養士のメニューをもとに、調理担当が入居者の好み、苦手なもの等を考慮してアレンジしている。入居者は職員とともに、おしぼりの準備、盛り付け、皿洗い、盆拭き等持てる力を活かしている。時には、ホーム菜園で収穫した野菜も活用され、この冬は大根でおでん鍋がふるまわれている。食事中は、音楽やラジオが流れ、楽しい雰囲気が進められている。	近々お茶ボランティアとの交流が予定されている。心地よい音楽を聴きながら入居者が楽しいお茶の時間を持たれることであろう。食を楽しむ取り組みの一つとしても、継続した交流に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごと食事摂取量を記録し、水分の少ない方へはお茶だけでなく家族から本人の好まれる飲み物を持参してもらい飲水量を記録し脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声かけ、誘導を行っている。できる範囲まで自力で歯磨きをしていただき、最後に職員は口腔内の確認、仕上げを行っている。夜間は義歯を預かり、ポリドントに浸している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンやサインを把握した上で、声かけ、誘導を行っている。夜間は紙パンツを使用される方も、日中は出来るだけ布パンツ、尿とりパットを使用していただき、自立支援を行っている。ズボンの上げ下げもその方に応じた対応を行っている。	排泄チェック表によりパターン等を把握して、本人の生活リズムにそった支援に努めている。日中は、できるだけ布パンツを中心に、パットを併用しながら自立支援に努め、夜間は紙パンツ、尿器使用の方もおられる。トイレは、きれいに掃除されており、入居者のプライバシーや尊厳への配慮が窺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便パターンを把握し、水分補給や腹部マッサージ、運動を促し、できるだけ自己の排便習慣がつくようにしている。おやつ時も冷たい飲み物、乳製品(牛乳、ヨーグルト)を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後からのゆっくりとした時間を設けてあり、浴室では個々に合わせた会話をしたり、季節ごとにゆずやしょうぶを入れて楽しんでいただいている。着がえの準備と一緒にしたり拒否があるときは無理強いをせず更衣のみや翌日へ配慮している、	入浴はゆっくりと入ってもらえるよう午後から時間を設けており、週2～3回程の支援を行っている。介助や洗身、着替えの準備など可能な限り本人のできる事を見守り、拒否の方へも更衣や翌日へ変更など無理強いをせず清潔保持に努めている。菖蒲や柚子、入浴剤などで季節や香りを楽しんだり、皮膚疾患の部位によっては、足浴や指間洗浄など個別で対応している。浴室や脱衣場は日々清潔に管理されているが、週末には徹底した掃除が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間の早い方は10時頃のお茶まで本人の部屋で休んでいただき、日中はレクレーションや体操で体を動かしている。夜間眠れないときは安心していただけるよう、声かけ、傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ壁かけ袋に一人一人入れてあり内服確認している。個人の薬袋の中に説明者も入れており薬セットから服用まで数回チェックしている。薬の変更があった場合は服用方法・副作用など把握し体調の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中にレクレーションを兼ねて皆で歌を歌っている。字を書くことが得意な方には習字の時間を設けたり、塗り絵が好きな方には季節感ある塗り絵などをしていただいている。又、出来る範囲で食事の用意や洗濯干しをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添い、気候、体調に合わせて散歩や季節ごとの外出(桜、コスモス、バラ見学)を実施している。地域で行っているかどうかにも参加し地域の方との関係を保つよう努力している。入居前にお世話になった近所の方と自宅に帰り仏壇参りを時々される方もいる。	入居者の希望にそって外出支援に努め、桜、ツツジ、バラ、コスモスの花見学に出かけている。普段は入居者の状態に応じて、近隣の散歩や庭先、デッキでの日光浴など、戸外で気持ち良く過ごせるよう工夫している。また、家族や知人等の協力を得て、美術館、物産館、理美容、仏壇詣り等の外出支援も行われている。	管理者は入居者の高齢化や認知症の進行で、以前より外出やユニット間の交流が少なくなっている現状を語っている。幸い棟続きでデイサービスや小規模事業所を併設しており、今後もご近所さんとしての行き来や、交流を進めていただきたい。また、敷地内を散歩したり、眺めのよい広いデッキでの日光浴なども継続して取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望に応じて本人のお金は数千円、金庫内に保管している。ちょっとした日用品やお菓子をスタッフが同伴し買い物に行っている。面会時や担当者会議時、残金やレシート・出納帳を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は電話を使用する事を支援している。家族が遠方におられる方は様子伺いの電話が来た際は本人と変わっている。遠方に住む家族から衣類やお菓子が届くことがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔にし、日中はカーテンを開け外気の光を取り込み、快適に過ごすことができるよう気をつけている。観葉植物を置いたり、季節の花を飾っている。また、外出時に撮った写真、ぬり絵、習字などを展示している。	ホールの窓側は、広々とした畑が見晴らしを良くしている。観葉植物を置き、写真、ぬり絵、習字も掲示し、日常の生活が感じられる。廊下には、職員のアイディアにより3月弥生の意味、旬の魚、野菜、花の名前を掲示して季節感を出している。浴室、トイレ等もきれいに掃除され、職員の笑顔、やさしい語りかけにより、家庭的雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方、個々が毎日の生活の中で好む場所を理解した上 ホールでは利用者同志のコミュニケーションが図れるようにテーブルや椅子の配置を変えている。又、テレビの傍にソファを置き、ゆっくり出来るスペースを獲っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室において利用者と家族の要望に合わせて使い慣れた寝具を使ったりベッドの配置や高さを話し合っている。また御家族の写真や手作りカレンダーなど飾っている。面会時は居室でゆっくりと過ごしてもらっている。	居室は、使い慣れた物置台やソファ等の家具が持ち込まれ、写真や手作りカレンダー、ぬり絵などを飾り、本人が落ち着いて過ごせるよう工夫している。毎週日曜日には、掃除を徹底する日と決めて、ベッドの下や柵、コンセント周り、窓の棧などをきれいになっている。衣替えなどは、家族に協力をお願いしながら取り組んでいる。居室では、数時間家族と一緒に過ごしたり、元旦のおせち料理を一緒に食べたりと、居心地の良い空間となっている。	日曜日は浴室・ベッドの下や柵・窓のさんなど徹底した掃除は、入居者の居心地を良くしている。このことも家族へ伝えることで更に安心に繋がるものと思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており利用者の一人一人の身体状況を把握し独歩・歩行器・車椅子の方にとっても安心して行動できるスペースを設けている。トイレには「便所」と表示し、わかりやすくしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391600048		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ須屋		
所在地	熊本県合志市須屋2863-4		
自己評価作成日	H28年2月29日	評価結果市町村受理日	平成28年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	H28年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらんぼ須屋も開所し5年が過ぎようとしている。開所当初からのスタッフも多く利用者が心地よく生活できるよう明るく家庭的な雰囲気を味わってもらえるような対応を行っている。併設の認知デイや小規模多機能の利用者との交流を定期的に設け、また日々の生活の中でも家族はもちろんのこと友人・ボランティア・元職場の同僚など気軽に訪れてくれる環境作りを心掛けている。職員は利用者に寄り添い役割や楽しみを持って生活出来る様支援を今後も続けていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 B棟

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は名札に理念を記したものを携帯しており施設内3か所に掲示してある。年度末には皆で理念の内容を確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃・行事に参加したり小学生の慰問や学習発表会の招待を受け毎年中学生の職場体験などで交流を深めている。音楽、舞踊、囲碁などボランティアの支援も受けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの見学時、運営推進会議でも認知症に関する話と事例を通しての話をしている。高校生の実習や中学生の職場体験時も認知症について理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人職員・地域住民・市職員の参加あり入居者状況や活動状況を報告し、意見交換の場となっている。参加者からの質問やこちらからのお願いなどもしている。家族にも会議の内容を理解していただける様に議事録を玄関に掲示している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回行われる運営推進会議に参加していただき、情報交換ができています。書類の提出でわからないことなど窓口や電話で相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外、施錠をしておらず日中はセンサーを設置し出入りを確認している。年1回勉強会を行い新人にも身体拘束マニュアルについてきちんと説明している。自席以外にもソファでゆっくり過ごしてもらったり、A・B間も自由に行き来しお互いのスタッフで見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で言い合える環境づくりに努め虐待防止に心掛けている。年1回は勉強会を行い認識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されてる方はいないが勉強会で知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉を用い説明をしている。何か疑問点、不明なことはないか面会や電話連絡時は確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話の際は現状報告し、意見や要望を聞くようにしている。担当を設けており日頃からご家族とも話しやすい環境づくりを心がけている。そこで出た意見、不満、要望はスタッフ同士報告し、改善につなげている。年1回茶話会を実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議は毎月、年2回は全体の会議を行い職員の意見を聞くようにしている。提案に対しても皆で話し合い改善し、次へのステップにつなげている。また職員が気軽に話が出来るような環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々職員と話す時間を設け、勤務に無理はないか不満などについて確認している。経験のある人には新人のフォローをお願いしている。		
13		○職員を育てる取り組み	事業所内、母体での勉強会に参加し、レベルアップのためケアマネ、介護福祉士の資格取得の支援もしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿・菊池グループホーム勉強会へ職員は参加し、そこで情報交換、新しいことを習得している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け、又 言動に注意を払い遠慮なく思いを伝えられる環境づくりを心掛けている。不安な様子が感じられる時には居室など静かに話せる場で話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の生活状況を把握し負担の軽減と不安が解消できるよう、又 思いを表出できる様に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって今困っていることや要望など確認し安心して生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を聞き安心して生活していただけるような声掛けを行っている。日常生活の中で個別で会話する時間を設けたり、グループレクの参加を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の状況を載せた手紙を担当者が書き送付。2ヶ月1回発行している‘さくらんぼ新聞’にはホームでの様子や写真を載せて伝えている。家族に負担がない程度、外出や外泊などを支援している。また、大きなイベントには参加を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、小規模やデイを利用していた方はスタッフに来てもらったり、事業者内でのイベント時は行き来し馴染みの人との交流を図っている。元職場の同僚の面会や遠方に住んでいる孫さんから電話も時々ある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	本人の性格や・能力を把握した上で協力・ 協同生活できる様職員は見守り、時には間 に入っている。孤立しそうな利用者に対して は環境を少し変え個別で対応しストレスにな らないように気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族へ病状を伺いの電話をしたり、施設や 病院の相談員の方を通して状況を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々接する中で、今の気持ちを聞いたり望 みや不安などを察知し家族面会時にも意見 を聞いている。申し送りやカンファレンスを行 い一貫した援助が出来る様に職員同士の 話し合う機会を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人や家族、ケアマネージャーから入所時 前の生活歴、家族構成、身体状況等の情報 収集に努めている。入所後も新たな情報は 職員で共有しケアーに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者の意思を尊重して一日の過ごし方を 決めて支援している。又、本人の現状での 心身状態に応じて無理のないように、今出 来ることや興味のあることの把握に努め生 活の中に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人・家族の意向を元に職員の意見を反映 しプランを立案している。また気付いた事は 日々職員間で話し合い検討している。担当 者会議では本人や家族の意見を取り入れる と共に現在の状況を説明し計画通りに援助 が出来ているか確認しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録に記入しており、特変や家族からの連絡、医療機関受診などの注意事項は申し送りノートを活用し職員間での情報交換を行っている。又、ケアの実践結果、気づいたことなど介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、家族の代わりに日用品を買いに行ったり、近くの理髪店まで同行したり柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	正月は近くの神社へ参拝、又地域の行事にも参加している。理容室へ定期的に行かれる方は顔なじみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族が同行するが、受診前には血圧の値を記したものを用意したり日頃の状況を話し、必要時には職員も同行している。家族の都合で受信できない方は往診を依頼している。不安なことは直接かかりつけ医よりアドバイスをいただくこともある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの異常や身体面での変化があるときは早めに看護師に報告し、異常の早期発見に努めている。感染性の疾患や救急時の処置の仕方などの勉強会を看護師が担当している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と連絡を取り職員も面会に行き、退院前は担当医・PT・相談員との会議に参加したり連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取りの実例はないが、勉強会により知識を深めている。日頃から看護師が介護職員に病気や介護についてのアドバイスを行い家族には契約時に重度化した場合における指針・同意書の説明をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し救急車要請やスタッフも連絡がつくよう電話のところに貼り出している。今年度よりAEDを設置しており消防署の方に来ていただき、胸骨圧迫法、AEDの使い方など救急車が到着するまでにできることについて勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの下、災害・夜間想定を組み込んだ消火避難訓練を年2回行っている。地域の協力体制は事前に自治会長さんに連絡し近隣の方にも訓練について回覧し協力をお願いし参加してもらった。施設内には卓上コンロや非常食なども準備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した介護、声かけ等を心がけている。又、排泄、入浴、個室でのプライバシー面では利用者が気持ちよく過ごして頂けるよう対応に努めている。守秘義務については入職時や研修を通して学んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や入浴、休む時間等、日常の中で選択して頂けるよう声かけを行い、無理強いすることなく一人一人が自由に過ごせるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、一人一人のペースや生活リズムを大切に話しを聞きながらゆっくり過ごしていただいている。又、天気の良い日は畑や近所を散歩することで気分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望し好みに合った服装や季節・体質にあった服装に心掛けている。散髪は以前より利用されていたところへ行ってもらい、家族や利用者から要望があれば近所の理容室へ行けるよう支援している。爪や耳垢も気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを準備したり、簡単な盛り付けなどを入居者と一緒に行っている。嚥下状況に合わせてきざみ・ミキサー食を提供。本人の状況により盛り付けの工夫やむせのある方にはトロミをつけている。季節感や行事に合わせた献立に利用者の意見、希望が反映するよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごと食事摂取量を記録し、水分の少ない方へはお茶だけでなく家族から本人の好まれる飲み物を持参してもらい飲水量を記録し脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声かけ、誘導を行っている。できる範囲まで自力で歯磨きをしていただき、最後に職員は口腔内の確認、仕上げを行っている。夜間は義歯を預かり、ポリドントに浸している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンやサインを把握した上で、声かけ、誘導を行っている。夜間は紙パンツを使用される方も、日中は出来るだけ布パンツ、尿とりパットを使用していただき、自立支援を行っている。ズボンの上げ下げもその方に応じた対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便パターンを把握し、水分補給や腹部マッサージ、運動を促し、できるだけ自己の排便習慣がつくようにしている。おやつ時も冷たい飲み物、乳製品(牛乳、ヨーグルト)を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後からのゆっくりとした時間を設けてあり、浴室では個々に合わせた会話をしたり、季節ごとにゆずやしょうぶを入れて楽しんでいただいている。着がえの準備を一緒にしたり拒否があるときは無理強いせず更衣のみや翌日へ配慮している、		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間の早い方は10時頃のお茶まで本人の部屋で休んでいただき、日中はレクレーションや体操で体を動かしている。夜間眠れないときは安心していただけるよう、声かけ、傾聴している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ壁かけ袋に一人一人入れてあり内服確認している。個人の薬袋の中に説明者も入れており薬セットから服用まで数回チェックしている。薬の変更があった場合は服用方法・副作用など把握し体調の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中にレクリエーションを兼ねて皆で歌を歌っている。字を書くことが得意な方には習字の時間を設けたり、塗り絵が好きな方には季節感ある塗り絵などをさせていただいている。又、出来る範囲で食事の用意や洗濯干しをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添い、気候、体調に合わせて散歩や季節ごとの外出(桜、コスモス、バラ見学)を実施している。地域で行っているどんどやにも参加し地域の方との関係を保つよう努力している。家族と音楽コンサートに出掛けたり病院受診の帰りに外食好きな物を食べて帰られる方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望に応じて本人のお金は数千円、金庫内に保管している。ちょっとした日用品やお菓子をスタッフが同伴し買い物に行っている。面会時や担当者会議時、残金やレシート・出納帳を確認させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は電話を使用する事を支援している。家族が遠方におられる方は様子伺いの電話が来た際は本人と変わっている。遠方に住む家族から衣類やお菓子が届くことがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔にし、日中はカーテンを開け外気の光を取り込み、快適に過ごすことができるよう気をつけている。観葉植物を置いたり、季節の花を飾っている。また、外出時に撮った写真、ぬり絵、習字などを展示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方、個々が毎日の生活の中で好む場所を理解した上 ホールでは利用者同志のコミュニケーションが図れるようにテーブルや椅子の配置を変えている。又、テレビの傍にソファを置き、ゆっくり出来るスペースを獲っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室において利用者と家族の要望に合わせて使い慣れた寝具を使ったりベッドの配置や高さを話し合っている。また御家族の写真や手作りカレンダーなど飾っている。面会時は居室でゆっくりと過ごしてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており利用者の一人一人の身体状況を把握し独歩・歩行器・車椅子の方にとっても安心して行動できるスペースを設けている。トイレには「便所」と表示し、わかりやすくしている。		